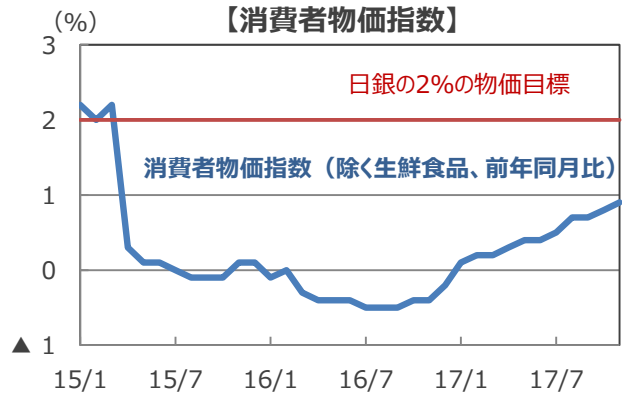




**今日のトピック 日銀の金融政策は現状維持（2018年1月）  
景気回復と金融緩和の同時進行は株高要因**

**ポイント1 金融政策は現状維持  
市場の予想通り**

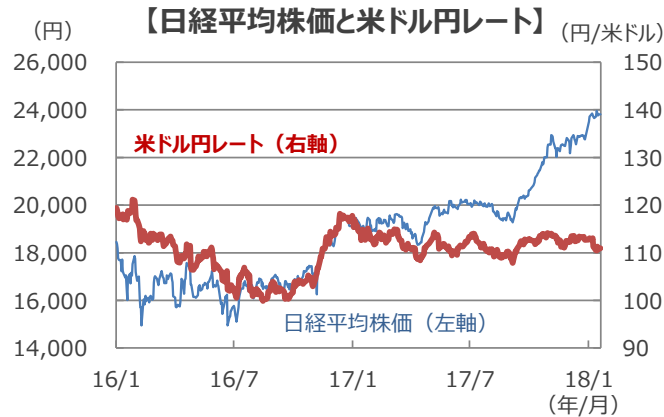
- 日銀は23日、市場の予想通り、金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定しました。短期の政策金利を▲0.1%、長期金利である10年物国債利回りをゼロ%程度に操作する金融調節を維持します。また、長期国債を買い増すペースも年約80兆円を目標とすることを据え置きました。



(注) データは2015年1月～2017年11月。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2 GDP見通しは据え置き  
物価の現状判断は上方修正**

- 同日、日銀は「経済・物価情勢の展望（展望レポート）」を発表しました。実質GDP成長率見通しの中央値を17年度1.9%、18年度1.4%、物価上昇率見通しの中央値を17年度0.8%、18年度1.4%と前回10月から据え置きました。物価安定の目標である2%程度に達する時期は2019年頃と前回から変更はありませんでした。
- 物価については、上昇率見通しに変更はありませんでしたが、予想物価上昇率の判断については、前回の「弱含みの局面が続いている」から、「横ばい圏内で推移している」に上方修正しました。



(注) データは2016年1月4日～2018年1月22日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開 景気回復が続くなか金融緩和も続く見込み**

- 国際通貨基金（IMF）は22日に2018年の世界経済の成長率見通しを3.7%から3.9%に引き上げました。世界景気回復や企業業績の好調を背景に、日経平均株価は昨年9月以降上昇基調が続いています。
- 米国では景気拡大を背景に、連邦準備制度理事会（FRB）が今後も追加利上げを実施するとみられます。一方、国内景気の回復が続くなか、日銀は物価目標達成に向けて、金融緩和を継続していくとみられます。景気回復と金融緩和の同時進行は株高要因と考えられます。

**ここもチェック!** 2018年 1月11日 日本株式市場の見通し  
2017年12月21日 日銀の金融政策（2017年12月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。